

# 沖縄県で広がる麻疹(はしか)

## 声なき感染症を知る

◆49◆

### 県感染症情報センター

県内の感染者数は90人(5月4日時点)と大規模に拡大しています。また、3月末に沖縄を旅行した後、麻疹を発症した10歳代の症例が名古屋から発表されており、この患者からさらに愛知県内でも拡大しています。

▽予防接種するしかない

麻疹の予防には予防接種を2回実施する以外に手段がありません。今回の沖縄県での患者の中心は20歳代から40歳代です。この世代は、現在の予防接種制度と違って、麻疹の予防接種を1回しか受けていない人が多く、2回目の定期予防接種率を95%以上にすることが重要とされています。

▽輸入麻疹

かつては日本も麻疹流行が続き、また、昨年からはイタリヤ、ルーマニアを含むヨーロッパ地域でも流行している、海外渡航者が持ち帰る、いわゆる輸入麻疹は毎年発生しています。

## 予防接種は2回必要

## 集団免疫が拡大防ぐ

実は、この男性は来日する前の3月14日には既に発熱しており、来日した17日に男性が立ち寄った大型商業施設を利用した沖縄県民等が25日以降に、次々に発症しています。

また、この25日以降に発症した人からさらに感染が広がり、沖縄を1回しか受けていない人が多く、2回目の定期予防接種率を95%以上にすることが重要とされています。

▽輸入麻疹

かつては日本も麻疹流行が続き、また、昨年からはイタリヤ、ルーマニアを含むヨーロッパ地域でも流行している、海外渡航者が持ち帰る、いわゆる輸入麻疹は毎年発生しています。

現在も、アジアの多くの国では、麻疹が流行しています。リゾート地のバリ島でも流行が続いており、また、昨年からイタリヤ、ルーマニアを含むヨーロッパ地域でも流行している、海外渡航者が持ち帰る、いわゆる輸入麻疹は毎年発生しています。

▽海外渡航の前後で注意すること

海外に行く前には、麻疹の予防接種歴を

母子手帳などで確認し、2回接種していない人は予防接種を検討した方がよいでしょう。また、帰国後も2週間程度は健康状態に注意することが必要です。帰国後2週間以内には発熱や風邪症状(せき、鼻水)に気付いた時は、「麻疹かも」と疑って行動することが必要です。

いきなり医療機関で受診するのではなく、必ず先に電話で相談し、医師の指示を守って受診してください。

また、受診のときは公共交通機関の利用は避けるようにしてください。

周囲に感染させる力は、最初の発熱や風邪症状が出現する前日か既に強くなっています。発熱の2〜3日後、再び高熱とともに発疹が出現します。発疹が出現して4〜5日後くらいまでが最も感染力が強いとされます。

▽初患は麻疹のようなもの?

「初患は麻疹の如し。何人も一度は免れずして経験し難し」という長谷川如是閑の名言がありますが、麻疹は初恋のように甘いものではありません。2回受けた「記録」があるもしくは「麻疹にかかったことが確実にある」以外の方々には、MRワクチンを接種することを前向きに検討していただきたいものです。実は筆者も、昨年MRワクチンを接種しました。麻疹の拡大防止のため、ご理解とご協力をお願いいたします。

(県感染症情報センター)

